

2004

管楽器店の内装

Interior Design of Musical Instrument Shop

AD 05 糸井 星子
指導教員 比留間 真

1.研究目的

管楽器店は各店で取り扱っている楽器などにはこだわっているが、店の内装までこだわっているように感じられない。私はユーザーのひとりとしてディスプレイされている楽器が選びにくい、なんとなくまとまりがない印象を改善したいと思い、この点を考慮した上で内装のデザインをすることにした。

2.調査と分析

店舗の調査で管楽器店の現状を知るために5店舗調査し、問題となっている共通点を分析した。

ほとんどの店が蛍光灯を使用していてディスプレイのガラスに光が反射し楽器の一部が見えにくかった。ディスプレイされている楽器の数は各店内の広さとは関係なく、どの店もほぼ同じくらいのために通路が狭くなってしまっている店があった。ディスプレイがメインになってしまっているため試奏室の位置はまとまっていなかった。

ユーザー調査でアンケートをとった結果、ゴチャゴチャしていて狭い印象がある、ショールーム効果が低いという意見が多かった。要望はおしゃれな雰囲気のお店、幅広い品揃え、広々している空間などがあった。また現状を調べたところ、最近では年配ユーザーの増加傾向があることがわかった。

3.コンセプトの立案

年配の方をメインターゲットとしたおしゃれで高級な雰囲気且つショールーム効果の高い管楽器店

- 店の雰囲気づくり(高級な雰囲気)
- ディスプレイの配置(見やすく選びやすく)
- 試奏室のあり方(気軽に使える)
- リペアコーナー(技術の高さを見せる)

今回は現状の管楽器店からどのように変わったのか比較しやすくするために、調査で協力していただいたクロサワ楽器さんの内装をデザインすることにした。

4.デザイン展開

前提条件で柱とバックルームへつながっている通路とエレベーターは今の状態からずらすことができないので、その事を考慮しながらコンセプトに沿ったレイアウトを考えなければならなかったのがとても難問となった。

店に統一感を持たせるのと高級な雰囲気づくり、さらにメインターゲットを考慮し、モノトーンの配色にした。店内にいくつかある柱の存在をカバーさせるため、レイアウトでも店全体をまとまりのある印象にさせるために曲線を使ったデザインにした。中心にある柱は楽器と小物類のディスプレイに使用して店に入った時のアイキャッチャーとなった。店の出入り口側のほうはディスプレイ、奥のほうは機能的なものとしてわけ、さらにディスプレイや試奏室の位置がバラバラになっていたので各コーナーにまとめることによってわかりやすい空間に変えた。試奏室をオープンな配置にし楽器を吹いている様子がわかるようにする事によって、今までより気軽に使いやすい雰囲気をつくった。さらにリペアコーナーも開放的にし、店の技術の高さをお客様に見せるようにした。

5.完成図



6.結論

クロサワ楽器さんのユーザーに聞いたところ、店全体が丸みを帯びたデザインなので落ち着くと評価され、大旨自分の思い通りにいった。しかしディスプレイの数が少なくもの寂しいという意見もいただいた。また、レジから出入り口が見えにくくなってしまったので、店側の視点から見たデザインも考慮する必要性を感じた。

7.参考文献

クロサワ楽器

<http://www.kurosawagakki.com/>